

長時間労働削減に積極的に取り組むベストプラクティス 企業を労働局長・運輸支局長が合同で訪問しました

神奈川労働局長は、令和6年11月11日（月）、
過重労働解消キャンペーンの一環として、時間外
労働の削減など働き方の見直しに積極的に取り組ん
でいる「ベストプラクティス企業」を訪問しました。



今回も昨年度に引き続き神奈川労働局長と神奈川
運輸支局長が合同で、トラックドライバー不足を背景とした社会問題、いわゆる「物流の
2024 問題」の解決に向け、荷主と物流企業とがそれぞれの立場で相互に連携して取り組ん
でいる企業を「ベストプラクティス企業」と位置付けて、その荷主企業となる麒麟ビール
株式会社横浜工場を訪問いたしました。また、今回は新しい取り組みとして昨年度に開催さ
れた「第15回物流関連ゼミ学生による研究発表会」で優勝した神奈川大学経済学部（齊藤
ゼミ）の学生にも参加をいただき、物流問題を研究テーマとする視点からの質問もいただき
ました。訪問当日は、ベストプラクティス企業のご担当者からトラックドライバーの長時間
労働の解消のため、荷主と物流企業とが連携した具体的な取り組みの説明をいただき、神奈
川労働局長、神奈川運輸支局長との意見交換を行いました。

（ベストプラクティス企業概要）

【荷主】麒麟ビール株式会社 横浜工場
所在地 横浜市鶴見区生麦1丁目17番1号
事業内容 酒類の製造、営業、販売
労働者数 約230名



【物流会社】キリングroupロジスティクス株式会社 東日本支社横浜支店
所在地 横浜市鶴見区生麦1丁目17番1号 麒麟ビール(株)横浜工場内
事業内容 キリングroup製品の輸送を主要業務
とするほか、総合物流企業として
一般物流分野へも事業を拡大
労働者数 約30名



【協力会社】株式会社イディアK&I パートナーズ横浜
所在地 横浜市鶴見区生麦1丁目17番1号 麒麟ビール(株)横浜工場内
事業内容 麒麟ビール横浜工場内の業務委託、
一般貨物自動車運送事業、
一般労働者派遣事業
労働者数 約200名



訪問当日は、荷主企業のキリンビール株式会社横浜工場のご担当者から横浜工場の工場概要の説明がなされた後、キリングループの物流を担うキリングroupプロジェクト株式会社のご担当者から、物流の停滞を解消するという課題に対し、生産部門と運送部門を「トータルで課題」として捉えることによって、物流単独では解決できない範囲までの課題をみつけ、会社、部門、運送事業者を含めた協力会社の連携によって解決に向けた取り組みを進めているとの説明がありました。

(各事例説明の様子)



具体的な事例として、事例1では、キリンビール株式会社では「運ばない物流」をキーワードとして、自社工場製造比率を向上させたこと、キリンビバレッジ株式会社ではエリア生産・エリア販売による対応を進めたことで拠点工場間での長距離輸送が削減されたとの説明がありました。

(事例1)

自工場製造比率の向上

全国9つの自社工場が物流拠点を兼ねている利点を最大限活かし、自工場出荷商品を、できるだけ自工場で製造することによって、**長距離輸送そのものを削減**する。

KEY words “運ばない物流”の推進

事例2では商品を受注してから納品するまでの所要時間（以下「リードタイム」という。）をプラス1日延長することで、ドライバーの拘束時間や荷役作業員の夜間作業時間の削減につながったとの説明がありました。リードタイムの延長は取引先の理解が必要となるところ、物流を維持することが社会課題の解決につながるの理念のもと、取引先の共感を得つつ対応しているとのことでした。

(事例2)

After(D+2)

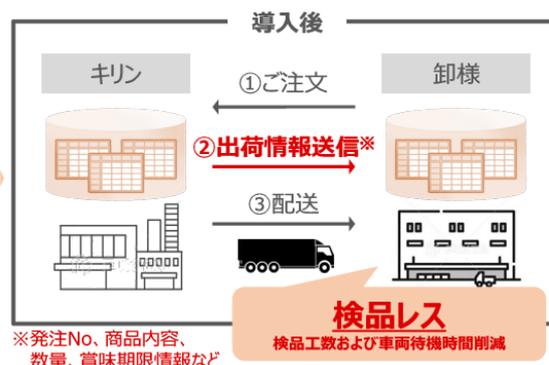
受注日翌々日配送

ご注文受付から中1日あり、積み込み開始までにピッキングを完了させることができるため、トラックの待機時間を抑制

ご注文受付日の翌日午前中からのピッキング開始となるため日中時間帯での作業が可能

事例3では事前に出荷情報を卸売業者（着荷主）に提供することによって着荷主側での検数、検品作業が削減されたとの説明がありました。従前は現物確認や管理日付の手入力などを必要としていましたが、事前出荷情報を提供することによって、検品作業の工数が削減されたとのことでした。

(事例3)

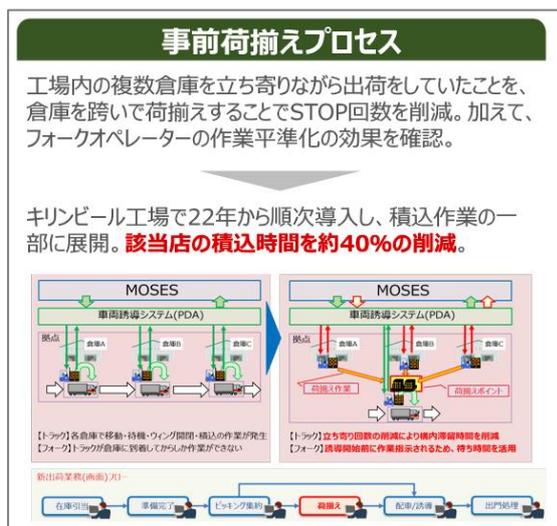


事例4では検品作業を伝票（書類）との照合ではなく、光学式端末による読み取りに変えることによって、荷積みのための待機時間の削減につながったとの説明がありました。

（事例4）



また、複数の倉庫を立ち寄りつつ、都度、各倉庫で商品の積み込みを行う方法から、情報システムを改修し、各倉庫の商品を一か所に集約する方法を導入したことで、荷積みのための待機時間の削減につながったとの説明がありました。



各事例の説明があった後、神奈川労働局長及び神奈川運輸支局長から適宜質問がなされたほか、本訪問に参加した神奈川大学経済学部学生からも荷主と運送事業者との間での荷待ち時間に関する

情報共有の在り方などの質問もあり、活発な質疑応答となりました。

（質疑応答の様子）



この後、工場視察では、倉庫内でのフォークリフトを使用した商品のピッキング作業や立体型自動倉庫による作業効率化の取り組みのほか、事例4のフォークリフト誘導タブレットと光学式端末による検品作業を見学しました。

（視察の様子）



検品作業を担当する株式会社イディアK&I パートナーズ横浜の作業員によれば、光学式端末の活用により、検品作業の時間が短縮されたほか、検品誤りが解消され、検品作業の精神的な負荷も軽減されたとのことでした。

倉庫内の視察後、神奈川労働局長からは、設備の自動化やデジタル機器の活用では大企業の強みを感じたものの、他の模範となる取り組みであり、これらを中小企業にも幅広く周知啓発したいとの意見が述べられました。また神奈川運輸支局長からは、荷待ち時間の削減には商慣行の見直しも大切、新たに「トラック・物流Gメン」による取り組みを開始したので、安心できる物流の実現を図りたいとの意見が述べられました。

（神奈川労働局労働基準部監督課）